

「活用出来る可能性がある」と県は説明

大谷市議は、雨水貯留施設の整備に国の交付金が活用出来るか、そのためには何が必要か、県の担当から説明を受けました。県は交付金が「活用できる可能性がある」と述べ、「市が取り組むならば協力したい」と述べました。

貯留施設を整備した中城グランドは約2500千円の予算、今年予定の大原グランドは3500万円かける予定です。これには国の補助金は

なくすべて市の単独費用です。市は地方財政は厳しいと言っていますので、整備には国の交付金を活用すべきです。

貯留施設の整備に国の交付金が使えるか調査



左から大谷市議、堤県議、右は県職員

大谷市議は9月議会でも「交付金活用のために国と具体的に協議をすべき」と指摘。上下水道局長は「（市の雨水貯留施設は）補助対象になつてない。活用するには佐賀市のように100年安心プランで莫大な計画と費用が必要」だから「中小都市でも活用できる下水道の補助メニューを国にお願いしている」と答弁。

大谷市議は、11日堤栄三共産党大分県議と共に、県の担当から国の交付金事業を活用

質問に対しても課長は「グラント等に貯留する効果はどのようにあるのか」そして「様々な対策案の中どれが最もベストな取組みか」また「それを検討したうえで整備手法として、国が示す下水道浸水被害軽減総合事業と河川の流域貯留浸透事業の採択条件を検討し、日田市が対象になる事業があれば交付金活用ができる」「日田市は下水道浸水被害軽減事業が活用できそうだ」

川事業はハードルが高い」と答弁。また「市が取り組めば県も一緒に取り組みたい」と述べました。

高知県の仁淀川の清流

市議会水資源特別委員会は高知県清流保全条例と保全計画、いの町の条例や取り組みを視察しました。大谷市議も参加。

仁淀川は全国1級河川水質ランキングで5年連続1位となり「奇跡の清流」と呼ばれています。透明度が高く青く美しいことから仁淀ブルーとしてTV番組で紹介されました。高知県では平成26年に清流保全計画を見直して取り組んでいます。

市議会水資源特別委員会は、環境省の基準より厳しくしている平成11年の目標を維持しています。「子どもたちの笑顔を育む仁淀川、人と自然が織りなす清流仁淀川」をキヤッチフレーズに流域全体をネットワークで結び、流域が一つになって清流保全に努めています。また関係7市町村長や関係団体で清流保全の推進協議会を立ち上げ、一斉清掃などに取り組んでいます。

高知和紙の特産地です。大工場排水が大きな課題です。排水基準はクリアーしますが濁度や沈殿物をさらに除去するため、河川に浄化装置を設置しています。



排水門のところから流れ出る工場排水を視察

県の清流保全計画、いの町の取組を視察

います。本川や支川の水質は、環境省の基準より厳しくしている平成11年の目標を維持しています。

子どもたちの笑顔を育む仁淀川、人と自然が織りなす清流仁淀川」をキヤッチフレーズに流域全体をネットワークで結び、流域が一つになって清流保全に努めています。

